

平成 18 年度 事業計画書

(平成 18 年 4 月 1 日から平成 19 年 3 月 31 日まで)

【実施方針】

- 1 生涯学習関連機関との連携、ネットワークを構築することを通して、市民ニーズを踏まえた事業展開を図る。
- 2 市民参画を進め、市民による市民のための学習活動を支援する。
- 3 財団が有する専門性・柔軟性を生かしながら、効率的・効果的な事業運営を行う。

【事業計画】

1 **学習機会提供事業**

(寄附行為第 4 条第 1 号に掲げる事業)

(目的) 施設機能を有効に活用することにより、市内の関係機関及びサークル・団体との連携を図りながら、市民の多様化した学習ニーズに対応した機会を提供する。

(効果) 学習機会の質的・量的拡充が図られることにより、受講者層が拡大し、市民の生きがいつくり、社会参加が促進される。

(所要経費) 16,843 千円

(1) さっぽろ市民カレッジ

年 3 期 (平成 18 年 5～8 月、9～12 月、平成 19 年 1～3 月)、15 歳以上の市民 (高校生を除く) 及び市内勤務者を対象に、文化教養系、市民活動系、産業・ビジネス系の 3 つの系を柱に、1 期あたり 40～50 講座程度、年 125 講座実施を予定。

文化・教養系は、学習活動の入門編としての趣味・教養講座をはじめ、実用的内容の講座や現代的課題 (社会の急激な変化に対応し、人間性豊かな生活を営むために人々が学習する必要のある課題) の解決に関わる講座、また「さっぽろ」を多角的に知ることができる講座など、幅広い分野で実施する。

市民活動系、産業・ビジネス系においては、大学等の高等教育機関などとの連携を図りながら、リカレント教育を中心とした段階的・継続的な学習機会の提供を目的とする講座を開催する。

(2) ジュニア・ウィークエンドセミナー

主に小学校高学年及び中学生を対象に、学校週5日制に合わせて、土曜日を有意義に過ごすための学習の機会を提供する。

ア 札幌市生涯学習センター

札幌市からの委託を受けて、様々な分野の体験・実践型の講座や、生涯学習センターの施設機能を活用したパソコンや料理の講座を、他の関連団体とも協力し、それぞれ毎月1回程度土曜日に開催する。

イ 札幌市青少年科学館

理科系知識の啓発を目的として、毎月1回土曜日に実験・工作教室等の事業を、札幌市教育委員会と共催で開催する。

(3) 生涯学習関連機関等連携事業

ア 連携講座の実施

さっぽろ市民カレッジにおいて、札幌市内の生涯学習関連機関等と連携して講座を実施する。

イ ボランティア啓発・交流イベントの開催

博物館や美術館等の生涯学習関連施設で活動するボランティアの交流と研修を目的とした「生涯学習ボランティアメッセ in SAPPORO」を年1回（平成19年2月）に開催する。

ウ インターンシップ制度の導入

平成19年度の制度導入に向けて、大学等の高等教育機関との調整を図る。

(4) 生涯学習センター施設機能活用事業

ア 舞台操作技術講習会

年1回（平成18年5～6月）、15歳以上の市民及び市内勤務者を対象に、基礎レベルの舞台操作技術の習得及び施設利用の促進を目的とした舞台操作技術講習会を開催する。

イ 映像スタジオ技術講習会

年1回（平成19年3月）、15歳以上の市民及び市内勤務者を対象に、映像スタジオの撮影方法及びデジタル編集の技術習得並びに施設利用の促進を目的とした映像スタジオ技術講習会を開催する。

ウ バックステージツアー

年1回（平成19年2月）、小・中学生の親子の市民を対象に、普段見る機会がない「ちえりあホール」の舞台裏や設備を体験する機会として、バックステージツアー（見学会）を開催する。

エ エル・ネットの放映

文部科学省のエル・ネット（教育情報衛星通信ネットワーク）を利用して、教育、科学、スポーツ、文化等に関する学習情報を、マルチビジョンで発信する。

（5） 視聴覚学習機会提供事業

ア オペラシアター

年6回（平成18年5月、7月、9月、11月、平成19年1月、3月）、センターが保有する音楽資料等の利用促進を図るために、センターが所蔵している映像教材（LD、DVD）を活用した質の高い芸術の魅力を学ぶ機会として、ちえりあホールにおいてオペラシアターを開催する。

イ 16ミリ映写機操作技術講習会

年4回（平成18年4月、7月、11月、平成19年1月）、15歳以上の市民（高校生を除く）及び市内勤務者を対象に、各種学習活動や地域活動において16ミリ映画を利用することによる学習効果の向上を目的として、16ミリ映写機操作技術講習会を開催する。

（6） 青少年科学館学習機会提供事業

ア 「プラネタリウム祭り」の開催

開館25周年事業の一環として「第1回プラネタリウム祭り」を開催する。プラネタリウム解説コンテスト・星座絵コンテスト等を実施し、プラネタリウム及び青少年科学館のPRを図る。

イ 宇宙セミナー

一般市民を対象に、最新の天文情報を第一線で活躍する人の生の声で提供し、宇宙・天文についての興味・関心を高めるための講座を実施する。

ウ 星空の歩き方

天文について一歩踏込んで知りたい人を対象に、年3回（平成18年5月～7月、平成18年9月～11月、平成19年1月～3月、各6日間）、青少年科学館の天体観測機器やプラネタリウムを活用しながら知識を深める講座を開催する。2回目については、受講者の利便性を図るため、中央区での開催を予定。

エ プラネタリウム・劇空間

プラネタリウムのドーム空間を生かし、詩の朗読・小編成器楽演奏等、「教育」に止まらない新たな可能性を試行する事業を実施する。

オ 4次元デジタル宇宙シアター（「スペース・シアター」から名称変更）

冬期間に、国立天文台が開発した4次元プログラムによって立体化された宇宙空間の映像を、天文指導員による解説を交えて上映し、天文に対する興味・関心を喚起する。なお、閑散期に実施することにより、集客を狙う。

カ 星の学習

初心者を対象に、年2回（平成18年6月～10月）、天文学習の機会と、実際の星空を観望する機会を提供し、天文学に対する興味・関心の喚起と天文基礎知識の普及を図るための講座を開催する。

キ 親子天文教室

小学生とその保護者を対象に、年2回（平成18年8月、平成19年1月）、天文工作（手作り望遠鏡等）を行い、天文に対する興味・関心を高めることを目的とした講座を実施する。

（7）生涯学習センター・青少年科学館二施設連携事業

天文分野に興味・関心がある市民のほか、生涯学習センターを利用する一般の市民を対象に、生涯学習センターを会場にした星空の観望会を年1回（平成18年8月）開催する。

2 人材活用育成事業

（寄附行為第4条第2号に掲げる事業）

（目的） 市内の関係機関及びサークル・団体との連携を図りながら、学習活動を通じた市民活動及びまちづくり活動を担うことのできる人材を育成する。

（効果） 学習活動を通して人材を育成し、その人材が活躍することにより、学習活動⇒学習成果の還元⇒さらなる学習活動、といった学習活動の質的・量的拡充が図られ、結果として、ボランティア等による市民活動及びまちづくり活動の活性化が図られる。

（所要経費）920千円

(1) **学習支援者育成・活用事業**

さっぽろ市民カレッジの受講修了者が講座の講師（補助講師）を務めるなど、学んだ成果を積極的に生かす人材を育成する。

今年度は、ワークショップに関することを学ぶ講座から、地域で行われている議論を円滑に進める人材「市民ファシリテーター」と、市民ディレクター養成講座から、地域やまちづくり活動の映像保存を担う人材「市民ディレクター」の育成を図る。

(2) **生涯学習指導者研修事業**

区民センター等のコミュニティ施設など、市民の生涯学習活動を支援する施設職員やまちづくりセンター・各区地域振興課職員等を対象として、生涯学習に関わる基礎的な知識の理解を深め、市民のまちづくりや生涯学習活動を支援する際に必要な知識やコミュニケーションに関する研修会を年2回（平成18年6月、11月予定）開催する。

(3) **生涯学習ボランティア育成事業**

講座事業の企画・運営に関わる知識・技術を中心に、札幌における生涯学習活動を推進する際に必要な技術・心構えを学び、その成果をボランティア活動として生かすことを目的として、生涯学習ボランティア研修会を開催する。

3 **学習活動支援事業**

（寄附行為第4条第3号に掲げる事業）

（目的） 豊富で幅広い学習情報を提供することで、市民の多様な学習ニーズに応え、自主的な活動を支援するとともに、計画的かつ継続的な学習活動を促進する。

（効果） これまで学習活動に関わってこなかった市民に対しては、学習のきっかけづくりを提供し、既に学習活動を行っている市民に対しては、これまでの学習成果や交流の場を提供することができ、生涯学習活動の底辺が広がる。

（所要経費） 8,493 千円

(1) メディアプラザ運営事業

学習に関する相談業務、人材・サークル等の情報提供及び活動支援、図書の閲覧・貸出、音楽・映像・語学教材の視聴、インターネットによる情報検索など、生涯学習に関する豊富で幅広い情報を提供する「メディアプラザ」を適正に運営し、市民の学習活動を総合的に支援する。

(2) 生涯学習情報収集・発信事業

ア さっぽろ生涯学習ネットワーク情報Sá:[サア]の発行

生涯学習関連施設・団体が実施している学習機会の情報を一覧で提供する情報誌を、年3回(平成18年4月、8月、12月)計24,000部発行する。

イ IT機能(ホームページ等)の活用

魅力ある情報や機能を追加した新ホームページを活用し、積極的な情報発信を行う。また、新たに「ブログ」を利用した学習情報の提供について検討する。

※ブログとは～「weblog(ウェブログ)」を略した言葉で、一般的に「インターネット上の日記風ホームページ」と訳される。ブログは、情報が急速に広がることと情報の双方向性が高いのが特徴。

(3) 生涯学習普及啓発事業

市民との交流を深めながら生涯学習の普及啓発を図ることを目的として、生涯学習センターを会場にちえりあフェスティバルを年1回(8月)開催してきたが、今年度からは、学んだ成果を発表する機会を増やすとともに、市民と手作りで行うイベントと位置付け、年2回開催していく(平成18年8月・平成19年2月予定)。

(4) 共催事業

ア 科学技術週間事業「科学映画会」(共催:日本科学技術振興財団)

平成18年5月に、科学技術週間協賛事業として科学技術映像祭の入選作品を上映する。

イ 青少年のための科学の祭典札幌大会(共催:日本科学技術振興財団)

平成18年9月に、中高校生を中心として、サイエンスショーなどを織り交ぜた内容で出店形式による実験や工作を行い、青少年の科学に取り組む意欲を喚起する。

ウ 札幌市中学校「私たちの科学研究発表会」(共催:札幌市中学校文化連盟)

平成18年11月に、市内中学校の科学クラブを対象に、研究活動発表会を開催する。

エ 中学校校内放送コンテスト（共催：札幌市中学校放送教育研究会）

平成 18 年 7 月に、札幌市内の中学校の校内放送局員が制作した放送番組と各放送局で活動するアナウンサーの放送技術に関するコンテストを開催する。

オ 中学校校内放送技術講習会（共催：札幌市中学校放送教育研究会）

平成 18 年 8 月、平成 19 年 1 月の年に 2 回、札幌市内にある中学校の校内放送局員の技術向上を図るための講習会を開催する。

カ 日本映画名作祭 2006（共催：札幌映画サークル）

東京国立近代美術館フィルムセンターの保有する貴重な日本映画フィルムの提供を受け、あまり市場にはかからない「日本映画」名作シリーズの 4 作品を 3 日間（平成 18 年 10 月予定）にわたり上映する。札幌映画サークルと協力連携し、両者による実行委員会形式で実施する。

（5） 視聴覚教材利用促進事業

年 6 回（平成 18 年 4 月、6 月、8 月、10 月、平成 19 年 1 月、2 月）、センター所有のフィルムを活用した「映画試写会」を開催する。

（6） 青少年科学館天文学習支援事業

ア 天文相談コーナー（星のへや）の運営

代表的な天体望遠鏡や参考図書などを常備した天文相談コーナーを設け、天文に興味を持った人の初歩的な疑問に答える。

イ 天文ホームページ「天文 Q & A コーナー」

ホームページに Q & A コーナーを設け、本で調べるのが難しい天文に関する質問の受付と回答を行い、学習を支援する。

（7） 青少年科学館情報発信事業

ア 「天文ニュース・コーナー」による情報提供

青少年科学館 1 階エントランスホールに「天文ニュース・コーナー」を設け、最新の天文情報を紹介する。

イ 優れた科学技術を有する地域企業の製作品等の紹介

科学技術への親しみと地域企業への関心を喚起するため、関連機関と連携し、優れた科学技術を有する企業の製作品等を紹介する事業を実施する。

4 **調査研究事業**

(寄附行為第4条第4号に掲げる事業)

(目的) 市民の学習ニーズに対応した生涯学習事業のあり方について調査研究する。

(効果) 財団が有する情報や専門性を駆使しながら行った調査研究を、財団実施事業の内容改善に生かすことにより、事業参加者の拡大につながる。

(所要経費) 424 千円

(1) **生涯学習に係る調査研究**

札幌市内において学習機会を提供している団体（公共施設、NPO、ボランティア、民間会社等）の活動実態を把握し、これらの団体との連携・協力の方向性や財団が果たすべき役割等について研究する。

(2) **科学技術に関する資料の収集**

解説の基礎資料、展示物及び展示の改良に資するため、市販の出版物や他施設における発行物等を収集する。

(3) **天文資料の収集**

札幌市天文台及び移動天文車を活用して観測天体写真を撮影し、収集する。

5 **生涯学習関連施設管理運営事業**

(寄附行為第4条第5号に掲げる事業)

(1) **札幌市青少年科学館の管理運営**

札幌市の指定を受けて、科学技術に関する学習機会や体験機会の提供を目的として、札幌市青少年科学館の管理運営を行う。

(展示事業の管理運営、プラネタリウムの管理運営、特別企画の開催、常設イベントや体験イベントの開催)

(所要経費) 414,495 千円

ア 展示事業の運営

(7) 常設展示

展示物を「見て」、「触れて」、現象を「考えてみる」ことができるよう、〈宇宙〉〈北方圏〉〈原理・応用〉〈マルチメディア〉のテーマを主として、より強い印象が残り、理解しやすい展示物の整備を行う。

これまでの小学生向けの展示解説に加え、中高生以上向けの解説文を用意する等、展示解説文の充実を図り、より幅広い世代に効果的な学習資料を提供する。

(4) 特別企画の開催

常設展示では伝えきれない科学情報を提供するため、話題性の高いテーマや特定のテーマを深く掘り下げた、体験型展示を中心にした特別企画を、小中学校の夏休みや冬休み等の期間に合わせて実施する。

(ウ) 実演実習・実験等

来館者が科学や科学技術について理解を深められるよう、サイエンスショーやテレビスタジオなど、解説を交えながらの参加形式による実演等を行う。

また、来館者が多い日曜・祝日に、科学に親しみやすい実験や工作会を行う。

サイエンスショー	子どもから大人までが楽しめるような科学実験の実演を通して、科学の不思議さや楽しさを伝え、科学への関心を高める。
ちょびっとサイエンス	身近にある材料を利用した簡単な実験や実演により、科学原理を楽しくわかりやすく紹介し、科学に対する興味を喚起する。
実演展示 (テレビスタジオ、人工降雪装置、低温展示室等)	装置の動きや模型展示の仕組みでは伝わりにくい科学現象を、実演や解説により紹介する。
日曜実験室	実験を体験することで、子供たちの「科学する心」を養う。また、生活に密着した題材や遊びの要素を取り入れ、理解を促す。
日曜工作室	工作を通して、科学的動作原理、材料の利用、道具の正しい使い方等の習得と興味を喚起する。
移動科学館	教育普及活動の積極的な展開を図るため、主に小学校などで科学教室を開催する。
幼稚園等への出前教室	就学前の子どもが楽しみながら、科学に慣れ親しむことができるよう、幼稚園等へ出向き、遊びの要素を取り入れた実験・実演・工作教室を開催する。

子どもワークショップ	就学前の子どもの科学の芽を育むため、遊びの要素を取り入れた実験等を行う体験コーナーを設置する。 あわせて、同伴する保護者の科学に対する興味をも喚起し、科学に親しみやすい環境をつくる。
------------	--

(イ) 講座・教室等

気象講座	日本気象学会北海道支部との共催により、身近な気象現象や話題性のあるテーマについて、専門の講師が最新の研究・情報をわかりやすく紹介し、気象学の啓発を図る。
親子向け実験・工作教室	科学技術をより身近で親しみやすく感じられるように、親子で参加できる実験・工作教室を実施する。
中高校生による科学教室	中高校生の科学研究を支援するため、中学校・高校と連携し、科学クラブ製作品等の展示・実演・解説など中高校生による科学教室を実施する。
大学生等による科学教室	大学生等の科学研究を支援するため、大学・高専などと連携し、展示・実演・解説など大学生等による科学教室を実施する。
先端科学技術講座	科学技術への理解を深めるため、企業・大学・行政などと連携し、先端科学技術や知的財産権の現状などの紹介講座を実施する。
工作技術競技会	工作を通して科学への興味を喚起するため、紙ヒコーキなどの工作技術を競う競技会を実施する。

(ロ) 学校支援事業

総合的な学習の受け入れ	児童生徒との質問応答のやり取りや職場体験を通して、学校側の科学に関する要望に限らず、進路学習的な受け入れも行い、科学館での学習効果を上げる。
実験実習セットの貸し出し	学校では準備が困難な実験・実習キットを貸し出し、学校の授業効果の向上に協力する。
家庭教育学級の受け入れ	札幌市内小学校の家庭教育学級を受け入れ、児童と保護者が一緒に学ぶ場を提供し、家庭の教育力の向上に協力する。
教材教具の共同開発	理科嫌いの子どもたちをなくしていくために、学校と科学館が連携し、授業をつくりあげていくための教材や学習プログラムの開発に協力する。
教員研修	授業やクラブ活動に生かせる観察・実験の紹介や実習を中心に実施し、教材研究に協力する。
博物館実習生の受け入れ	大学からの依頼により、学芸員の資格取得のための博物館実習生を受け入れ、指導する。

(カ) 科学館ボランティアの養成

案内・工作指導などを中心に科学館事業に主体的に参加し、その一翼を担い、自ら知を楽しむとともに他の利用者に楽しさを伝える科学館ボランティアを養成する。

イ 天文事業の運営

プラネタリウムの機能を生かし、投影内容及び観覧環境の充実を図る。

(7) プラネタリウム

一般投影	天候や時間に関係なく星空を投影できるプラネタリウムを使って、星や星座についてわかりやすく解説し、天文学の初歩から最新情報までを学習する機会を提供する。
学習投影	小中学校を対象に、理科授業の一環として実施し、学校の授業では理解することの難しい天体の動き、街中では見ることのできない満天の星空を疑似体験することで、天文への興味関心を喚起する。
夜間特別投影	季節あるいは新しい天文的話題をテーマとし、通常よりも掘り下げた内容の投影を行う。また、通常の投影時間では観覧できない人へ鑑賞の機会を提供する（年 11 回）。
イブニング プラネタリウム	特別投影に加え、日中に行っている一般投影を週末の夜間行うことにより、通常の投影時間では観覧できない人へ鑑賞の機会を更に拡大する。

(イ) 天体観望事業

天体観望会	プラネタリウム夜間特別投影に併せて、科学館駐車場において移動天文車を使った観望会を行う。参加対象は特別投影観覧者に限らず、広く市民一般とする。
移動天文台	天文台を利用する機会の少ない市民に、自分達の住む地域で気軽に天体観望する機会を提供する。より多くの団体に利用の機会を提供するため、今年度より団体条件を現行の 50 名から 30 名へ引下げる。
札幌市天文台 夜間公開	都心近接の立地条件を活かして多くの市民に天体観望の機会を提供することにより天文に対する興味・関心を高め、科学への夢を育む。
西岡天文台夜間公開	一般公開することを条件に市民から寄付された西岡天文台において夜間公開を年 6 回実施し、市民の天文に対する興味・関心を高める。

(ウ) 天文指導員の養成

社会教育の一環として地域における天文普及活動を担う人材を育成するため、市内在住の大学・短大生を対象に、天文事業への参加や定期研修の実施により天文指導員を養成する。

(I) 共催事業

a 道民の森観望会（共催：財団法人北海道森林整備公社 道民の森）

平成 18 年 5 月と 10 月に、当別町にある道民の森と共催で実施する。札幌市内では見られない星雲などの淡い天体を見る機会を提供する。

b 「宇宙の日 作文・絵画コンテスト」（共催：財団法人日本宇宙フォーラム）

「宇宙の日（9 月 12 日）」を記念して、日本宇宙フォーラムとの共催により市内小中学生から宇宙に関する作文・絵画を募集し、展示・表彰する。

(2) 札幌市生涯学習センターの管理運営

札幌市の指定を受けて、市民の生涯学習に関わる活動を支援することを目的として、札幌市生涯学習センターの管理運営を行う。

（所要経費）402,309 千円

ア 貸室事業

市民の幅広い学習活動を支援するため、ちえりあホールをはじめとした各種研修室を、それぞれの活動の場として提供する。

イ 施設の有効活用

学習成果の発表の場として展示スペースの無料開設、受験生等に対する学びの場として空き室の開放等、利用者のニーズに合わせた弾力的な運営を行う。

(3) 視聴覚センターの管理運営

札幌市からの委託により、視聴覚教育の推進、市民団体や学校等への学習支援を行うことを目的として、視聴覚センターの管理運営を行う。

（所要経費）39,429 千円

ア 学習教材開発事業

提供教材の充実を図るため、学校教育及び社会教育の関係者等に委託して、市販教材にはない、地域に密着した特色ある教材を制作する。

イ 視聴覚教材貸出事業

市内の学校、町内会及びサークル等の団体に対して、学習効果の向上を目的として16ミリフィルム・ビデオ教材の貸出しを行う。

6 収益事業

(寄附行為第4条第6号に掲げる事業)

(所要経費) 10,529 千円

(1) 売店・自動販売機事業(札幌市青少年科学館)

札幌市青少年科学館の管理運営に附帯する事業として、来館者への便益提供を目的とした売店・自動販売機事業を行う。

(2) レストラン・自動販売機事業(札幌市生涯学習センター)

札幌市生涯学習センターの管理運営に附帯する事業として、来館者への便益提供を目的としたレストラン・自動販売機事業を行う。